

へきけんニュース

ホームページ http://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/
メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp
☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



令和2年度道立教育研究所・北海道教育大学連携講座「へき地・小規模校教育充実研修」が開催され、**116名**が参加しました!!

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター



札幌駅前サテライト会場での講義受講の様子

8月17日、令和2年度へき地・小規模校教育充実研修が、北海道教育大学札幌駅前サテライトを主会場に双方向遠隔演習システムを使用して、旭川・釧路・函館に接続し、実施いたしました。この研修講座は、北海道立教育研究所と北海道教育大学が連携して令和元年度から開設しております。さらに、本年度から北海道へき地・複式教育研究連盟が新たに共催して行いました。

各会場では計21名の参加があり、午後から行われた川前先生の講義は、zoomでの参加を可能とした内容で行われ、zoomによる参加者が95名、総計116名が受講しました。今回は、道内公立学校の始業式と

重なる日程でありましたが、北海道へき地・複式教育研究連盟の呼びかけもあって、最終的には116名もの参加となりました。参加者の中には、教頭先生も参加していました。

遠隔地にあるへき地・小規模校は、研修会場への移動等の理由により、参加が困難な場合が多いため、今回はzoom配信したことで、へき地校の関係者から大変喜ばれました。今回、短期間で116名の参加者があったことから、かなり潜在的なニーズがあることがうかがわれました。

午前にはグループ演習を実施し、午後からへき研センター副センター長の川前あゆみ先生の講義を実施いたしました。午前におこなわれた演習の各キャンパスのコーディネーターは、札幌校=池田考司先生、旭川校=勝本敦洋先生、釧路校=森健一郎先生、小湊隆司先生、函館校=阿部二郎先生、が務めました。

受講者の評価は、グループ演習も講義も評価が高く、「へき地校が初めての人が多い中で、このような研修を開設して頂くことはありがたい」「今後も開設して欲しい」と、期待が寄せられていました。また今回は、遠隔地域への配信も行っており、研修に出ることが困難なへき地校の教員たちからも歓迎されました。

釧路校から遠隔研修を受ける受講生



遠隔双方向の演習の新たな進め方

今回の遠隔双方向の進め方は、画面の中で相手と結ぶだけでなく、各キャンパスで議論していることを同時提起で各参加者が書き込み、それを共有画面で集約するシステムを採用いたしました。これにより、参加者の議論が同時にかつ相互に見え、その中から共通ポイントを抽出し、その論点を投げかけていく演習方法をとりました。各グループで提起した内容をそのまま全体で取り上げることができることで、参加感のある研修となりました。

◆演習話題1 「へき地校から大規模校への進学のスムーズなあり方」

共通の話題の一つ目としては、へき地・小規模校の子どもが中学・高校で大規模校へ進学する際の、小規模校と大規模校のスムーズな連続性のあり方についてです。

へき地・小規模校で、様々な学校の児童会や学級委員長等の役割を担って活躍していた子どもが、進学して大きな学校に進学したときに、萎縮しないようにするためには、どのような配慮と活動をすることで、次の学校につながられるかを話し合いました。この点では、へき地校から来た子どもの方が主体的なリーダー経験を生かして活躍している場合と、へき地校の子どもが萎縮している場合の両方があり、へき地校の子どもたちへの働きかけと自信の持たせ方によって、大きく変わることが議論の焦点となりました。

議論の中で出た大きな課題と方向性としては、①へき地の経験の自信を持たせること。②知らない人間関係の中でのフォーマルな人間関係の教え方。③大きな学校との交流の仕方。④暗黙のうちに通じる人間関係とフォーマルな人間関係のTPO。⑤大きな学校と小さい学校との学び方や人間関係の違いの学習。⑥学校全体への帰属意識と誇りの醸成。⑦教師同士の連携のしやすさとその効果の志気。⑧集団のとりまとめ経験やリーダーの役割の学習。これらを工夫することとその方法などが議論されました。

◆演習話題2 「へき地・小規模校での子どもの自立の促進と教師の関わり方の限定」

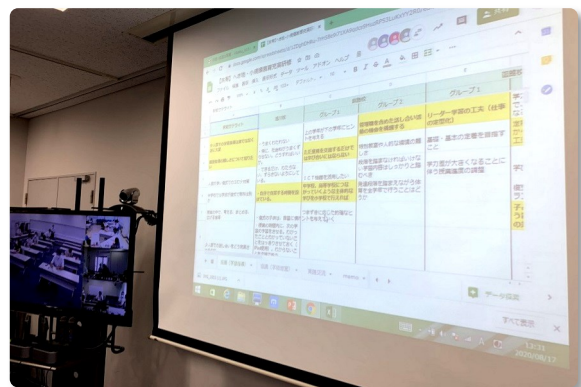
共通の話題の二つ目としては、へき地・小規模校での自立のさせ方と教師の過度の関わり方の限定的なあり方についてです。

少人数なので教師もじっくりと指導ができることもあり、つい手を貸し過ぎて逆に子どもの自立を妨げてしまう場合もあるということです。ある意味では密接な指導ができるのはへき地・小規模校のメリットでもあります。この教師が子どもへ関わりすぎて、自立を妨げた場合、どのように改善して、子どもの自立を促していくかについて話し合われました。

議論の中で出た大きな課題と方向性としては、①リーダーとしての責任を持たせること。②個に応じた適正な役割付与。③教師の発言を最小限にした指導方法。④自主的な活動の上で、分からないことを表出できるようにする雰囲気を作ること。⑤全員の場や公的な場での表現の場の意図的な設定。などを工夫することとその方法などが議論されました。



4会場を結んだ双方向遠隔研修



課題を提示し、意見を集約しながら演習を実施

川前あゆみ副センター長が、包括的で具体的なへき地教育の講義をしました。

川前先生の講義のタイトルは、「へき地・小規模校・複式学級のよさを生かした学習指導・学級経営の在り方-小・中学校の円滑な接続を目指した効果的な指導の在り方-」です。

講義では、全体的なへき地教育の特徴と必要な指導方法等が講義されました。最初に川前先生から、へき地・小規模校の教師の指導課題として、「①小規模校では何事も互いに協力しないと成立しない小規模校運営があること。②大規模校とは異なる、人数が少ないからこそ必要な個別指導力・集団的指導力が必要であること。③児童生徒数が少ないために、より豊かな切磋琢磨の学びを保障するための工夫が常に必要なこと。」等の特別なへき地校の指導課題が提起されました。



午後からの川前副センター長の講義

【自主的な学習指導にどのようにして転換できるか】

基本的な指導の考え方として、川前先生から、複式教育は「間接指導の時間を“指導ができない時間”ではなく、子どもたちが“自ら考え行動していく時間”として考えることで、指導の重点と声かけ方法はどう変えられるか。」という観点で複式指導を変えていく必要性を提起されました。自主的な授業運営としては、「例えば、「前時の確認」「本時の課題理解」「教科書読み」「仮説・予想の討論」「一人思考一人問題解答」「解法に向けた考え方の討論」「発表」「答え合わせ」「誤答の省察」等がある。」ということが示されました。これらを子どもたちが自分たちで授業の流れを作っていく必要があるということです。さらに個々の子どもの学習計画や自己目標管理を進めていく必要があるとしました。

【馴れ合いを克服したけじめや議論を用いた活動の重要性】

学級経営に関しては、馴れ合い的な関係にならずに、けじめをつけることも指摘されました。また少人数の個人差を補うために、ICTを活用した授業も積極的に取り上げていく必要があることや、遠隔双方向教育を含めて他校との交流の重要性も指摘されました。遠隔の仲間との交流で、自校の良さを認識するとともに他者意見と相対化したり切磋琢磨して高め合う競争が必要であることも指摘されました。さらに朝の会や係活動、授業の中でも発表等の機会を拡充して、個別意見発表・集団の議論による発表なども指導しながら、様々な集団討論の工夫が必要であることが指摘されました。



札幌駅前サテライト会場で講義する川前先生



川前先生の講義を他キャンパスで受ける受講生

【1人学習・ペア学習の議論の多様な工夫と見える化の必要性】

学習指導では、少人数でできないことを捉えるよりも少人数だからこそできる個別指導・ノート指導・学習カード等を導入したり、ペア学習と1人学習を交互に組み合わせて、切り替えていく学習展開方法が必要であることが指摘されました。また学習活動・議論・到達点の経過の見える化を図り、例えば、ICT黒板・プリント掲示・ファイルや付箋等を使って学んだことを確認することなども必要であることが指摘されました。

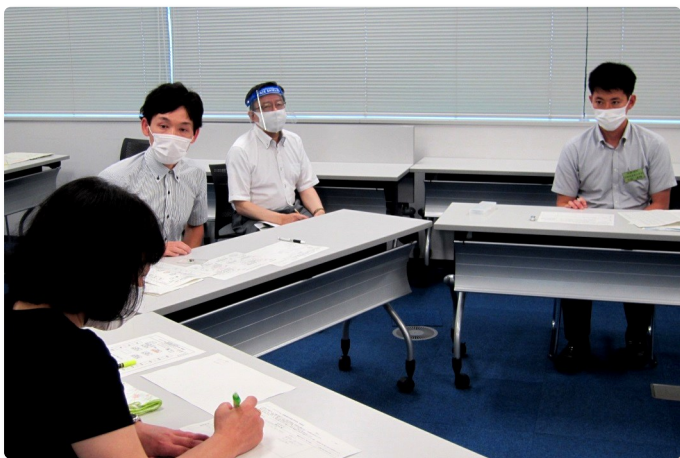
【自主探求活動の導入の必要性】

「主体的・対話的で深い学び」は、少人数であるからこそできる探究的な学習活動や事典・辞書を活用した学習、探求図書利用学習を用いたり、議論の展開を見ながらアドバイスができるリーダー学習等を取り入れたりすることも重要であることが指摘されました。

【少人数で信頼関係を基盤にしたへき地・小規模校の教育活動】

へき地・小規模校では教師と子どもの信頼関係も強いために、期待効果“ピグマリオン効果”等を基盤にして、自立的に展開する条件があるとのこと。ある程度自主的な活動パターンを自覚すると、少人数では目が届くために、個別指導計画・複数学習指導計画を随時変えていくことは可能となります。

異学年のリーダー性の育成や活動役割分担や交流学习・協働学習も組みやすく、少人数だからこそできる活動があることを積極的に導入することが重要であるということです。またへき地・小規模校では、教師間の協働性も組みやすく、チーム学校がやりやすい側面があります。川前先生からは、このようなへき地・小規模校だからこそできる教育活動を積極的に取り入れることの重要性が指摘されました。



各会場の演習の様子、左上：札幌駅前サテライト、右上：旭川校
左下：釧路校、右下：函館校